



No. 2816

2016-2017年度

会長 松村 秀一

幹事 橋爪 誠治

R広報委員長 上野山栄作

有田

担当：嶋田(崇)委員

第2640地区
例会日 毎週木曜日 12:30
例会場 紀州有田商工会議所6F
事務所 〒649-0304
有田市箕島33-1
紀州有田商工会議所2F
有田ロータリークラブ
Tel (0737) 82-3128
Fax (0737) 82-1020
創立 昭和34年6月15日
ホームページ http://www.aridarc.jp
e-mail office@aridarc.jp

～ 四つのテスト 言行はこれに照らしてから ～

- 1. 真実かどうか
- 2. みんなに公平か
- 3. 好意と友情を深めるか
- 4. みんなのためになるかどうか



～有田ロータリークラブ目標～

親睦を深め
ロータリーライフを楽しもう



次回のお知らせ

- 平成29年3月2日 第2818回
- ・会員卓話：井上 修平 君
「私が親睦活動をやってみて」
- ・ソング：「君が代」「奉仕の理想」

- 本日のプログラム
- 平成29年2月23日 第2817回
- ・ロータリー創立記念日夜間例会 於) 橋家
- 第2550地区 鈴木 宏 PDG
- 「1905年2月23日の夕刻のお話」「わたしのロータリー」

前回の報告 (第2816例会)

- 開催日 平成29年2月16日(木)
- 点鐘 (松村会長)

- ゲストの紹介 (井上親睦活動委員長)
- ゲスト: 大江 隆之 様 (コミュニティランチ和 代表)
- 董 涛 君 (米山奨学生)

米山奨学金授与



2月の米山奨学金が松村会長から董涛君へ授与されました。

会長の時間 (松村会長)

イタリアでは15～24歳の若年層の失業率が40%あるそうです。失業者対策として、自治体が主催する職業訓練コースがあります。服飾・モード関係、食品・料理などさまざまな

職人の訓練があります。なかでもイタリア中の殆どの自治体に取り組んでいるものがピッツァ職人の養成コースです。



イタリア南部のカンパニア州の一例をみます。その州都はナポリです。カンツォーネ、ピッツァで有名です。この州のピッツァ職人養成コースではピッツァに関する基本理論修得のための1ヶ月講義を受講します。その後、学校と提携したピッツァ協会加盟店で6ヶ月見習いとして勤務します。この間の給料は自治体が負担します。実習の時、生徒はプロの仕事を目の当たりにし、大いに触発されながらその技を盗もうと励み、店側はモチベーションの高い若者の手をただで得られるということで、協力関係が容易に生まれます。生徒にとっては就職活動、店にとってはスカウトのチャンスにもなります。

こういった職業訓練の受講資格は、一般的には25歳以下で低学歴(学歴なし、小学校卒業、中学校卒業)であることです。この職業訓練を受講した若者が語っています。「仕事をしたいが、自分は学歴が低いので何も始められないのではないか、そんな不安を抱える若者はナポリでは少なくない。長期失業者を目にしては、自分の将来とだぶらせてゾットしたりする。そんな時はともすれば、出口がないと知っていながら闇労働の誘いにものがちだ。そんな見通しの明るくない環境にあって『私にはこれが出来る』というものを持つことの意味がどれだけ大きいかわかなくて欲しい」と力説します。若者向け職業訓練コースが大きく太い希望の綱であり、精神的なことで優れた役割を果たすものであることがよくわかります。若年労働者にその場限りの職をあてがうのではなく、社会人として働くことの意味を理解させるこの

仕組は、根本的な失業者対策になることでしょう。いまでは職業訓練は更に社会とリンクした活動に進化し外国人労働者への配慮も盛り込まれているそうです。

日本でも職業訓練学校を儲けさせるためのような失業対策でなく、誰も置き去りにしないという姿勢を明確にした失業者対策を期待しています。

川口君:大江隆之様、本日の卓話宜しくお願い致します。

上野山(栄)君:大江さん、ようこそ有田RCへお越し下さいました。ロータリーの出来ることを学ばせて頂きます。

上野山(捷)君:大江隆之様、ようこそ有田ロータリーへお越し下さいました。本日の卓話ありがとうございます。

幹事報告

(橋爪(誠)幹事)

○地区より

- 1.2017-18年度会長エレクト研修セミナー(PETS)開催の案内
- 2.米山記念奨学生終了式及び歓送会の案内
3. 地区内クラブ情報収集のご協力をお願い

○その他

1. 来週は橋家にて午後6:00よりロータリー創立記念日夜間例会・ロータリーカレッジを開催します。先日配布しました当クラブの定款・細則・内規をお持ちください。
2. The Rotarian 2月号 回覧
3. ハイライトよねやま (掲示)
4. 有田経済クラブ通信 (掲示)
5. 他クラブ例会変更 (掲示)

出席報告

(嶋田(ひ)例会運営委員)

本日の会員数26名

(出席規定免除会員8名)

出席会員数18名

(出席規定免除会員7名)

72.00%

2/2 88.46%

MU:なし

ニコニコ箱の報告

(上野山(捷)SAA)

松村君:大江隆之様、お忙しい中、ようこそ有田RCへお越し下さいました。卓話楽しみにしています。岩本様、箕嶋神社参拝記念をありがとうございました。上野山捷身様、橋爪誠治様、保田中学校での職業紹介事業よろしくお祈いします。

橋爪(誠)君:大江隆之様、ようこそ有田RCへ。本日の卓話興味深いお話、よろしくお祈いいたします。

井上君:大江様、本日はよろしくお祈いします。

橋本君:大江隆之様、ようこそ有田RCへ。本日の卓話よろしくお祈い致します。

中元君:大江隆之様、本日の卓話よろしくお祈い致します。

嶋田(ひ)君:大江様、卓話よろしくお祈い致します。勉強させていただきます。

橋爪(正)君:大江様、遠路わざわざ有田の地までお越し下さりありがとうございます。

中村君:大江隆之様、ようこそ有田RCへ。興味深いお話拝聴させていただきます。

卓話

「生かされ生きる」



コミュニティランチ和代表

大江 隆之 様

BBS運動はアメリカのニューヨークで少年犯罪が多発していた頃、クルーターという一人の青年が「この問題は本人やその家族の責任ではない。社会全体の問題であり責任だ」として始まりました。

日本では戦災孤児や浮浪児が街をさまよい貧しさから非行行為を繰り返す現状を目の当たりにした京都の一人の青年が「青少年の指導は青年の手で」という思いから、京都府に一通の手紙を送ったのがきっかけとなり、京都少年審判所の所長の目に留まり昭和22年2月22日、日本BBS連盟が誕生しました。

私がBBSに入会したきっかけは自身の過去の経験からによります。中学時代に担任教師からの言葉に不信感を抱き、教師や両親に対して反発反抗したことによるのが不登校への始まりでした。もがき苦しむ中学時代、高校進学への思いがありながら出席日数が不足していることから、校長は卒業をさせないという判断になりました。応援してくれている先生方が校長先生の判断に対して反対意見を何度も会議で訴えていただいたおかげで、定時制高校に進学することになりました。高校に進学してからは昼間はスーパーで働きながら通学し、クラブは日本拳法部に所属しました。恩師や仲間たちとの出会い、そして、自分の中で負けたくない、必ず見返してやるという強い思いから、仕事も学業もクラブ活動も手抜きしなかったことを今でも鮮明に記憶しています。定時制に入学し一年後、ふと中学時代を振り返った時、変わった自分に気づきました。エネルギーで腹の底から力が湧き出ているような感覚でした。その時、世の中には自分と同じような思いをしている人が沢山いるはずだから、将来何らかの形で力になりたいと考えはじめました。

社会へ出てからBBSを新聞記事で知りました。非行少年と会員が共に生きながら更生の道を歩むというものでした。非行も不登校も根っこは同じです。私はBBSに入

会し、2000年8月3日に高野山BBS会を発足し会長を15年間務めました。2005年にはBBSでは全国初のNPO法人格をもったBBS「Big Brothers and Sisters Movement 21 School」を設立しました。日々継続した活動に取り組みながら、子ども達の居場所作りを目指しました。そして平成18年8月16日には、引きこもりや不登校や非行など、問題を抱えた青少年達の就労支援事業として弁当店「コミュニティランチ和」を創業し、和歌山県のコミュニティービジネスモデルに採択され約200人を受け入れてきました。コミュニティービジネスとは、地域社会のコミュニティーによる問題を継続したビジネスによって解決していく手法です。

創業から3ヶ月後、私にスキル性の胃がんが見つかり、店は一度閉店を余儀なくされました。しかし、受け入れた青少年達との「必ず戻る」という約束から、「生きる」という強い思いを持つことができました。手術入院3週間で退院、翌日には仕事場へ復帰しました。そして、一週間後には再オープンが実現しました。彼らとの約束を果たす為に生かされたと感じました。

その他にも病気や自暴自棄になり死にかけてことが数回あります。しかし、今生きています。何度も命の危機から回復している自分を振り返ることもしばしばあり、自分は「生きている」というより、「生かされながら生きている」という感覚が強くなりました。

「コミュニティランチ和」の創業から10年が経ちました。10年前は不登校や引きこもりへの就労支援はジョブカフェか「和」ぐらいでしたが、今は社会の理解と沢山の受け皿ができました。そして現在は子どもの貧困という問題が浮き彫りになってきています。これからの10年間は貧困という問題に取り組んでいきたいと思えます。コミュニティランチ和のコンセプトは「腹の底から元気に」です。自分自身の経験から身体を鍛え、食べることを大切にすることが腹の底から元気になると考えています。課題は沢山ありますが、これからも出来ることから取り組み、生かされている命を全うする覚悟で活動を続けていきます。ありがとうございました。

～社会・青少年奉仕委員会～
保田中学校での職業紹介事業
第2弾

平成29年2月16日(木)

2回目の今回は郵便事業のお仕事と、保険業務についてのお仕事について、生徒たちに授業を行いました。



郵便事業の講師：上野山捷身会員



保険業務の講師：橋爪誠治会員

閉会・点鐘 (松村会長)

日程		3月の例会プログラム	
3/2(木)	会員卓話：井上 修平 君	「私が親睦活動をやってみて」	
3/9(木)	外部卓話：向後 周一 氏	(有田市役所経営管理部理事 地方創生推進監) 「地方創生の取り組みについて」	
3/16(木)	外部卓話 淵田 幸宏 氏	(和歌山県警察本部生活安全部) 「サイバーセキュリティ対策の強化を」	
3/23(木)	後期IDMの発表		
3/30(木)	会員卓話：嶋田 崇 君	「言葉はおもしろい」	